

東京大学医学部附属病院肝胆膵外科・人工臓器移植外科での研修を終えて

山形大学医学部外科学第1講座

高橋 良輔

この度、日本臨床外科学会国内外科研修制度に応募させていただき、平成29年10月1日から10月27日までの4週間、東京大学医学部附属病院肝胆膵外科・人工臓器移植外科での研修を受けました。このような素晴らしい経験ができましたのも、支援していただいた日本臨床外科学会、ご多忙の中研修を受け入れ、指導をしていただいた東京大学医学部附属病院肝胆膵外科・人工臓器移植外科 科長長谷川潔先生、准教授阪本良弘先生をはじめとする医局員の皆様、推薦していただき快く送り出してくださった山形大学医学部外科学第1講座教授木村理先生には、紙面を借りて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

私は山形出身で、大学、研修、入局も山形大学です。県内の市中病院での2年間の勤務はありましたが、他施設での取り組みや手術に関しては論文や学会発表の範囲でしか知り得ることができませんでした。今回日本臨床外科学会国内外科研修制度を知り、この機会に肝胆膵外科領域で長い伝統と多数の症例数、良好な成績を残している東京大学医学部附属病院肝胆膵外科・人工臓器移植外科での研修を希望しました。生体肝移植を見たことがなかったので、生体肝移植を見ることも目的としていました。

研修期間は東大キャンパス内に宿舎を貸していただけることになり、前日に東大を訪れました。そこでまず驚いたのが、伝統ある建物と研究所の多さでした。ここで世界最先端の研究が数多く行われており、自分もそこで研修をするのだと実感しました。

初日はまずカンファから始まり、ほぼ毎日留学生が見学に来ているためカンファは常に英語でのプレゼン、討論が行われていました。世界中から留学生が集まり、見学や研究を行っていることを知りました。また、カンファの質と量にも驚きました。術前、術後カンファ、移植カンファ、カンサーボードなど数多くあり、他科とも積極的に討論が行われていました。術前カンファではスライドを作成しての画像やデータ・合併症などの確認に加え、かなり詳細な解剖と緻密なシミュレーションをプレゼンしていました。特に肝切除に関してはSYNAPSE VINCENTを用いて血管の1本1本までしっかり構築して区域やうっ血域をそれぞれ計算し、いかにして癌を取り除くことができるか、どこまで肝臓を取ることができるのか、といったさまざまなシミュレーションをしていました。このような詳細な検討を行うことで、肝機能の悪い症例、多発肝転移や大量肝切除、肝移植症例などのハイリスクな患者でも、安全で正確な手術ができるのだと思いました。

診療はチーム制で行われており、5人ずつの4チームでした。外科は臓器別に分かれており、肝胆膵外科・人工臓器移植外科だけでこの人数というのにも驚きました。さらにチーム長以外は若手が多く、みんな活き活きと働いている姿がとても印象的でした。今回私は4週間の研修という立場でしたが、ただの見学ではなくチームの一員として扱っていただきました。私にも担当患者が割り当てられ、検査を行って診断し、術式を検討して、手術の助手にも入ることができました。治療方針や術式についてチーム内で積極的に討論したことも大変勉強になりました。担当患者の中には、右側肝円索を伴う肝内胆管癌という貴重な手術症例もありました。症例についてじっくりと考え、論文を読み、CTを何度も見返して解剖を確認し、SYNAPSE VINCENTで切除範囲を繰り返しシミュレーションし、いかに病巣を取り除くのがいいかじっくり考える機会を与えていただきました。見るだけでなくこのように実践する機

会もあり、今後の自分の医療の糧になると思いました。

4週間のうち、チームの全ての手術に手洗いさせていただくことができました。特に肝切除に感銘を受け、術前のシミュレーションの大事さを実感しました。どこをどう切ればどのグリソンや静脈が出て切除範囲はどうなるのか、まさにシミュレーション通りでした。さらにICG蛍光法も用いながら、肝静脈も十分に露出させ、かつ早く正確な手術で、隙のない「手術の流儀」を見せていただきました。これが良好な手術成績にもつながるのだとわかりました。そして一番印象的だったのは、恥ずかしながら初めての経験だった生体肝移植でした。術前から全身状態不良なレシピエントの管理、レシピエントにマッチした緻密なドナー肝切除シミュレーション、手術当日はドナー、レシピエント、バックテーブルでのホモグラフト処理、そして術後管理といった周術期管理を見ることができました。手術の時は多くの外科医が集まり、それぞれの役割を全うする、まさに医局員総出の手術であり、そのマンパワーの多さにも驚きました。

今回の研修では若いうちにこのように多くのことを学び、たくさんの刺激ある経験ができ、外科医としての選択肢を増やすことができました。また、東京大学医学部附属病院肝胆膵外科・人工臓器移植外科の多くの先生達と交流を持つことができましたのは、私の大きな財産になりました。この経験を活かし、今後の山形大学医学部外科学第1講座の発展に貢献していきたいと思ひます。

多くの日本臨床外科学会員の先生達にも、ぜひこの制度を利用して研修していただきたいと思ひます。支援していただいた日本臨床外科学会、研修・指導していただいた東京大学医学部附属病院肝胆膵外科・人工臓器移植外科の先生方、送り出していただいた山形大学医学部外科学第1講座の先生方には深く感謝し、研修の報告とさせていただきます。